

PBL (Project Based Learning = 課題解決型学習) 実施の考え方

幸手市教育委員会

PBL とは

他者の要望や自身の願望に基づき、何をしていくか(課題)を設定し、期限内にその目標の達成や理想の実現(解決)を目指す活動を通じて、「未来を切り拓く力」を身に付ける社会に開かれた探究的な学び(学習)



Project とは

正解の無い未知の課題を実際に解決していくこと。
※語源は、未知の状況 (pro) に、自分を投げ入れる (ject) こと。

PBL にするための要件

単元設計の際に、以下の要件が備えられているかを確認する。

課 題

- 「誰の何のため」という、対象と目的が具体的かつ明確である

(例)▲水害を調べて発表しよう⇒必要な防災グッズを親に提案し、家族を守ろう!

- 「あなたなら何をするか?」という、実行方法を問う課題である

(例)▲食品ロスとは何かを考えよう⇒食品ロス防止のために私達に何ができるだろうか?

解 決

- 解決(目標の達成、理想の実現)をしたかの基準が明確である

(例)▲漠然とゴミを減らしたらゴール⇒1人1日100gの家庭ゴミを減らしたらゴール

- 解決したかどうかを検証し、次につなげる活動の時間がある

(例)▲最終結果をまとめて発表した⇒未解決理由を探り、改善策を考え(実行)した

学 習

- 振り返りの視点を示し、学びの自覚化を促す時間がある

(例)▲チェックシートに○×を付ける⇒何を学び、どう活かすかを言語化する

- 探究のプロセスを繰り返し、学びを段階的に発展させている

(例)▲学びが単発である⇒発達段階を意識して、探究のプロセスを繰り返している

PBL 実施に向けた支援体制

先生方の PBL に対する理解を深めるために、市教委主催の研修会を実施。(希望制を主とする。)

先進自治体における事例動画等を、市内 SV にて共有。

学校訪問やオンラインによる相談体制を充実させ、単元設計、授業後の指導・助言等、様々な方法でサポート。

PBL の基本的な形

PBL は**実施形態**と**課題設定の仕方**を**組み合わせて**実施する。PBL の規模や連携先の有無、児童生徒に取り組ませたい内容などを考え、PBL の形を設定する。

実施形態

◇チュートリアル型：架空のシナリオを元に実施

例) 教室で教師からシナリオを提示する。

◇実践体験型：実際に社会と連携して実施

例) 地域や企業と連携して課題を設定する。

課題設定

□外発的：課題がある程度与えられている

例) 観光客の減少が課題。どんな手立てが考えられるか。

□内発的：課題を自ら見付ける

例) よりよい学校にするには、何が課題でどう取り組むか。



PBL で育成する資質・能力と学びの段階的発展イメージ

生活科

身近な人々、社会及び自然を自分との関わりで捉え、自分自身や自分の生活について考え、表現することができるようにする。(思考力、判断力、表現力等)

低学年における PBL は生活科そのものである。低学年においては、**課題=思いや願い**と捉え、その実現に向けて活動していくことが大切である。

自分

他者

学校
地域

中学年以降の
学習へ

社会
世界

実生活・実社会で
生きて働く力
(未来を切り拓く力)

表現

体験

感じる
考える

思いや
願い

課題の
設定

まとめ
・表現

振り返り

情報の
収集

整理・
分析

総合的な学習の時間

実社会や実生活の中から問いを見だし、自分で課題を立て、情報を集め、整理・分析して、まとめ・表現することができるようにする。(思考力、判断力、表現力等)

中学年以降の総合的な学習の時間においては、単元全体を**探究的な学習のプロセス**を基に構成する。「課題の設定」、「情報の収集」、「整理・分析」、「まとめ・表現」の**探究の過程を繰り返し**、学びを段階的に発展させることが大切である。また、各プロセスに**振り返り**を入れることがポイントである。